

クビアカツヤカミキリ にご注意ください！

本虫を見つけた場合は**その場で捕殺**してください

クビアカツヤカミキリは、海外から侵入し、生態系等に問題を引き起こすとして、特定外来生物に指定されています。

埼玉県内では、ほとんど全域で発生が確認され、一部地域ではウメ、スモモ等の農作物に被害が確認されています。

クビアカツヤカミキリとは

6月～8月上旬に成虫が現れ、樹皮の割れ目に産卵し、繁殖力が旺盛です。

幼虫の期間は2～3年。春～秋に樹木を摂食し、範囲は心材にまで及ぶこともあります。

幼虫



首回りは赤色

体全体は光沢のある黒色

成虫（2.5～4cm）

フラス



大量のフラス
を見つけたら
要注意！！

クビアカツヤカミキリの幼虫は、モモ、ウメ、サクラ等の主にバラ科樹木の内部を激しく食い荒らし、**大量のフラス（糞と木屑が混ざったもの）**を排出します。

1本の樹体に複数の個体が侵入すると、樹体が枯死することもあります。



防除対策

早期発見、早期防除が極めて重要!!

- 本虫を見つけた場合は、その場で捕殺してください。
- 被害の拡大防止には、伐採処理が最も有効です。
伐採した木は放置せず、焼却処分をしてください。
- 伐採処理できない場合には、下表を参考にフラス排出孔からエアゾール剤で幼虫を駆除するか、噴霧器等で農薬を散布してください。併せて、成虫の分散防止のため羽化期まで（6月前）に、幹にネット（目合4mm以下）を巻くなどの処理をしてください。



成虫分散防止対策の例

果樹でクビアカツヤカミキリに使用できる農薬 令和8年5月21日現在

農薬の名称 (農薬の種類)	適用作物	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
ロビンフッド (フェンプロパトリンエアゾル)	果樹類	—	収穫前日まで	5 回以内	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射
アクタラ顆粒水溶剤 (チアメトキサム水溶剤)	もも・ネクタリン	2000倍	収穫前日まで	3 回以内	散布 200～700 L /10 a
	おうとう		収穫 7 日前まで	2 回以内	
	小粒核果類 (注 1)				
アクセルフロアブル (メタフルミゾン水和剤)	すもも・もも・ ネクタリン	1000倍	収穫前日まで	2 回以内	散布 200～700 L /10 a
		100～200倍			樹幹散布 5～200 L /10 a (注 2)
	うめ	1000倍		3 回以内	散布 200～700 L /10 a
テッパン液剤 (シクラニプロール液剤)	おうとう・もも 小粒核果類	2000倍	収穫前日まで	2 回以内	散布 200～700 L /10 a
モスピラン顆粒水溶剤 (アセタミプリド水溶剤)	もも・小粒核果類	2000倍	収穫前日まで	3 回以内	
	おうとう			1 回以内	
ダントツ水溶剤 (クロチアニジン水溶剤)	もも	2000倍	収穫 7 日前まで	3回以内	
	うめ		収穫前日まで		
	すもも		収穫 3 日前まで		

※農薬使用に際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。

(注1) 小粒核果類とは、あんず（アプリコット）、うめ、すもも（プラム、プルーン）を含む。

(注2) 樹幹散布の際は、果実にかからないように十分注意して使用してください。

もしも農作物への被害を発見したら

本虫による農作物被害については、埼玉県病害虫防除所まで御連絡ください。

(住所：熊谷市須賀広784 電話番号：048-539-0661)

令和8年5月 発行：埼玉県農林部農産物安全課

写真提供：埼玉県環境科学国際センター



さいたまっち&コバトン

※本虫のより詳しい情報については、『埼玉県環境科学国際センター・ホームページ』で確認できます。